古記録にもとづく東海地震史研究
－とくに 13 世紀頃の未知のイベントについて－

30116005　岩垣　舞

過去に起こった地震の様相を詳しく調べることは、将来起こりうる大地震の時期・規模・被害などを予測し、適切な防災対策を施すために欠かすことができ ない。一般に東海地震の再来間隔は平均 150～200 年と考えられているが、13 世紀には東海地震が起こった確証の得られていない期間がおよそ 260 年 間も存在し、他の期間と比べて特異である。本研究では、この期間に書かれた複数の古記録を読み、それらに含まれる情報の量・内容を細かくデータベース化 した上で比較・分析し、その結果を元に未知の東海地震について再考を行った。その結果、地震や他の自然現象に対する各史料の記録特性が明らかになるとともに、京都・鎌倉での地震記録の比較にもとづいて東海地震が起こった可能性のある期間を絞りこむことができた。